

第21回環境情報科学センター賞 受賞者

学術論文賞

受賞者：武正憲氏（明治大学法学部）



対象業績：海洋レクリエーションにおける利用者の認知行動把握に関する一連の研究

【受賞理由】

海水浴、ダイビング、釣りといった海洋レクリエーションを対象として、利用者の認知行動を把握しようとした挑戦的な取り組みである。単に対象・場所の組み合わせとしてのケーススタディにとどまらない新たな領域の開拓をおこなっている。

対象とする3つの論文では、それぞれ以下のような個別の考察をおこなっている。

①では、利用者の混雑感と満足感についての単純な相関関係は得られなかったものの、たとえば「利用者の混雑表明については一定の利用者数を越えた場合に表れ」、「閑散表明については個人の感覚の差が大きく影響する」などの興味深い示唆がなされている。混雑感と満足感に関するきちんとした実証には継続的調査が待たれるが、海洋レクリエーションについての研究として将来性がある。

②では、CO2 シープに対する評価として、一般に漁業従事者は低いと認識し、ダイビング事業者は海中景観の構成要素として高く評価している点があるなど、いくつかの興味深い考察を行っている。

③では、釣り利用者の行動に関する興味深い方法による研究の結論として「潮位や時刻よりも天候に大きく左右される」ことが導き出された。また「利用者の安全性や駐車場といった利便性」が利用の集中に影響し、その対策には「山岳域と同様の課題」があることを示唆している。動画記録により再現性が確保されている点も、特徴的である。

以上のように対象分野および手法の新規性の観点から挑戦的な取り組みとして論文賞にふさわしいものとして評価する。

<対象論文>

- ① 武正憲・和田茂樹（2020）東京都式根島の海水浴場における混雑度が利用者の混雑感及び満足感に与える影響，環境情報科学学術研究論文集 34，p31-36.
- ② 氏家萌美・武正憲・原光宏・和田茂樹（2018）式根島浅海域 CO2 シープに対するダイビング事業者と漁業従事者の認識，環境情報科学学術研究論文集 32，p227-232.
- ③ 武正憲・坂入愛・和田茂樹（2017）下田湾観光遊覧船からの動画記録をもとにした釣り人の行動把握と経済価値評価，環境情報科学学術研究論文集 31，p167-170.